Photostud

THE TENNO SHO (AUTUMN)　第170回 天皇賞(秋)(GI)

	1着	2着	3着	4着	5着
本賞	220,000,000円	88,000,000円	55,000,000円	33,000,000円	22,000,000円
付加賞	3,234,000円	924,000円	462,000円		

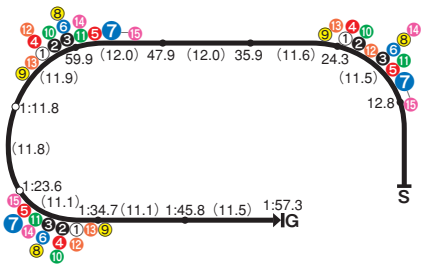
レース映像はコチラでご覧いただけます。

3歳以上、未出走馬および未勝利馬
負担重量　3歳56*ロ4歳以上58*ロ、牝馬2*ロ減

2024.10.27　東京　曇・良　芝2000メートル　(国際)(指定)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム(着差)	コーナー通過順位	上り(600メートル)	馬体重(増減)	単勝オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	ドウデュース	牡5	58	武　豊	1:57.3	14-14-13	32.5	504(－4)	3.8②	友道康夫(栗東)	122
2	④	タスティエーラ	牡4	58	松山弘平	1¼	3-3-5	33.4	506(＋18)	53.8⑨	堀　宣行(美浦)	118
3	⑨	ホウオウビスケッツ	牡4	58	岩田望来	½	1-1-1	34.0	502(±0)	48.1⑧	奥村　武(美浦)	117
4	⑪	ジャスティンパレス	牡5	58	坂井瑠星	クビ	12-11-11	33.0	470(－2)	15.0⑥	杉山晴紀(栗東)	117
5	②	マテンロウスカイ	騸5	58	横山典弘	クビ	5-6-5	33.4	476(＋2)	121.4⑫	松永幹夫(栗東)	116
6	①	ベラジオオペラ	牡4	58	横山和生	½	3-3-3	33.7	514(－4)	13.3④	上村洋行(栗東)	115
7	⑥	ソールオリエンス	牡4	58	横山武史	ハナ	8-8-8	33.3	468(＋8)	15.4⑦	手塚貴久(美浦)	115
8	⑭	レーベンスティール	牡4	58	C.ルメール	½	8-11-11	33.2	480(－4)	4.7③	田中博康(美浦)	114
9	③	ステラヴェローチェ	牡6	58	佐々木大輔	1¼	8-8-8	33.5	504(－4)	150.3⑬	須貝尚介(栗東)	112
10	⑮	ニシノレヴナント	騸4	58	田辺裕信	アタマ	15-15-15	33.0	490(±0)	415.8⑮	上原博之(美浦)	112
11	⑤	ノースブリッジ	牡6	58	岩田康誠	クビ	12-13-13	33.3	500(－2)	68.7⑩	奥村　武(美浦)	112
12	⑧	キングズパレス	牡5	58	A.シュタルケ	ハナ	8-8-8	33.6	500(＋6)	97.0⑪	戸田博文(美浦)	112
13	⑫	リバティアイランド	牝4	56	川田将雅	½	7-3-3	34.1	492(－)	2.3①	中内田充正(栗東)	107
14	⑩	ダノンベルーガ	牡5	58	C.デムーロ	1¼	5-6-5	34.1	498(－)	14.3⑤	堀　宣行(美浦)	109
15	⑬	シルトホルン	牡4	58	大野拓弥	½	2-2-2	34.6	468(＋4)	412.0⑭	新開幸一(美浦)	108

単勝⑦380円(2人気)　複勝⑦200円(2人気)　④1,020円(9人気)　⑨1,000円(8人気)　枠連③-④3,240円(11人気)
馬連④-⑦9,660円(26人気)　ワイド④-⑦3,000円(27人気)　⑦-⑨2,980円(25人気)　④-⑨18,280円(66人気)
馬単⑦-④13,560円(36人気)　3連複④-⑦-⑨102,180円(154人気)　3連単⑦-④-⑨397,100円(612人気)
5重勝⑦⑪⑯⑧⑦7,656,690円(72票)　対象競走：京都10R／東京10R／新潟11R／京都11R／東京11R



通過タイム：600メートル 35.9 - 800メートル 47.9 - 1000メートル 59.9　上り：800メートル 45.5 - 600メートル 33.7

アラカルト

- 武豊騎手はキタサンブラックで制した17年に続く天皇賞(秋)7勝目。なお、本競走7勝は保田隆芳元騎手にならぶ最多タイ記録。ＪＲＡ重賞は本年5勝目、通算362勝目
- 友道康夫調教師は天皇賞(秋)初勝利。ＪＲＡ重賞は本年6勝目、通算69勝目
- ハーツクライ産駒はＪＲＡ重賞通算86勝目
- 5歳馬の勝利は20年アーモンドアイに続く通算24回目

ドウデュース *Do Deuce*

牡　鹿毛　2019.5.7生
北海道安平町　ノーザンファーム生産
馬主・㈱キーファーズ　栗東・友道康夫厩舎
馬名意味・する＋テニス用語（勝利目前の意味）

ダストアンドダイヤモンズUSA系　F3-d

ハーツクライ 鹿毛　2001	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛　1986	Halo
		Wishing Well
	アイリッシュダンス 鹿毛　1990	トニービンIRE
		ビューパーダンスUSA
ダストアンドダイヤモンズUSA Dust and Diamonds 鹿毛　2008	Vindication 黒鹿毛　2000	Seattle Slew
		Strawberry Reason
	Majestically 黒鹿毛　2002	Gone West
		Darling Dame

5代までのインブリード：Hail to Reason Ｓ４×Ｍ５　Lyphard Ｓ４×Ｍ４

INTERVIEW

木村純一厩舎長（ノーザンファーム空港）

ベストパフォーマンスだったと思います

中間の過程も申し分なく、画面越しにパドックを見てもいい状態で出走できたと感じられました。ＧⅠにしてはペースが落ち着いたなかで、後方からのレースとなった時は勝ちきるまでは難しいのではと思いました。それだけに直線での末脚は衝撃的でした。これまでのレースの中でもベストパフォーマンスだったと思います。次走も強いレースを期待しています。

父ハーツクライ

北海道千歳市　社台ファーム生産　中央、首、英19戦５勝（ドバイシーマクラシック・首^{G}Ⅰ、有馬記念^{G}Ⅰ、京都新聞杯^{G}Ⅱ）、最優秀４歳以上牡馬、07年から供用、21年引退、23年死亡。19年日本リーディング２位

〔代表産駒〕**ドウデュース**（本馬）、**リスグラシュー**（コックスプレート・豪^{G}Ⅰ、有馬記念^{G}Ⅰ）、**ジャスタウェイ**（ドバイデューティフリー・首^{G}Ⅰ、天皇賞（秋）^{G}Ⅰ）、**ヨシダJPN** Yoshida（ウッドワードＳ・米^{G}Ⅰ、ターフクラシックＳ・米^{G}Ⅰ）、**ワンアンドオンリー**（日本ダービー^{G}Ⅰ）、**ヌーヴォレコルト**（オークス^{G}Ⅰ）、**スワーヴリチャード**（ジャパンＣ^{G}Ⅰ）、**シュヴァルグラン**（ジャパンＣ^{G}Ⅰ）、**コンティニュアスJPN** Continuous（英セントレジャー^{G}Ⅰ）、**アドマイヤラクティ**（コーフィールドＣ・豪^{G}Ⅰ）、他に重賞勝ち馬多数

母ダストアンドダイヤモンズUSA

北米11戦６勝（ギャラントブルームＨ^{G}2、シュガースワールＳ^{G}3、ダッシングビューティＳ、ＢＣフィリー＆メアスプリント^{G}Ⅰ２着）、16年輸入

レガリニUSA（14 牝父Hard Spun）北米13戦１勝、輸入繁殖牝馬

アマダラファエラ Amada Rafaela（15 牝父Distorted Humor）北米２戦１勝

マッチベター Much Better（16 騸父Pioneerof the Nile）北米41戦７勝（ベイショアＳ^{G}3２着、ズーマビーチＳ・Ｌ２着、シャムＳ^{G}3３着）

フラーレン（17 牝父Pioneerof the Nile）持込 中央19戦４勝（ＪＲＡアニバーサリーＳ、矢作川特別）、地方２戦０勝

ロンズデーライト（18 牡父ディープインパクト）中央14戦２勝 ㊐

ドウデュース 本馬（19 牡父ハーツクライ）中央12戦７勝（日本ダービー^{G}Ⅰ、有馬記念^{G}Ⅰ、天皇賞（秋）^{G}Ⅰ、朝日杯フューチュリティＳ^{G}Ⅰ、京都記念^{G}Ⅱ、アイビーＳ・Ｌ、弥生賞ディープインパクト記念^{G}Ⅱ２着、皐月賞^{G}Ⅰ３着）、仏２戦０勝、首１戦０勝、獲得総賞金1,272,893,800円

ダストテイル（20 牝父ロードカナロア）中央１戦０勝

（21 不受胎）

エンダードラゴン（22 牡父リアルスティール）㊐

（23 牝父シルバーステート）

（24 牡父コントレイル）

祖母マジェスティカリー Majestically

アメリカ産　北米２勝

ダストアンドダイヤモンズUSA（08 前出）

サンドラⅡ（12 牝父Bluegrass Cat）北米１勝、輸入繁殖牝馬、ウォーターズエッジ Water's Edge（ヘイネスフィールドＳ・米）の母

史上最速の末脚で高らかに復権宣言！

イクイノックスを破ったダービー馬が金看板の輝きを取り戻した。牝馬三冠馬リバティアイランドをはじめ、６頭のＧⅠホースが一堂に会した秋の天皇賞は、２番人気のドウデュースが快勝。種牡馬への転身が間近に迫ってきた５歳の秋、末脚の〝凄み〟をさらに増したハーツクライ産駒が、高らかに復権を宣言した。

逃げ候補の１頭と目されていたノースブリッジがスタートで立ち遅れ、これを尻目に同厩のホウオウビスケッツが先手を奪取。２着に逃げ粘った毎日王冠と同様、ゆったりとした流れに持ち込んで風を切る。リバティアイランドが中団から徐々に進出して好位につけたのに対し、エプソムＣ、オールカマーを連勝中の３番人気馬レーベンスティールは後方で折り合いに専念。五分のスタートを切ったドウデュースの武豊騎手はさらにその後ろ、外に馬がいない後方２番手まで下げ、思い切りよく末脚勝負に構えた。

マイペースの逃げを打ったホウオウビスケッツは残り600㍍地点からスパートし、早めに後続を突き放す策に出る。十分と映る手応えで直線に向いたものの、追われてからの反応が鈍かったリバティアイランドは坂の上りで後退。これを横目に物凄い脚勢で伸びてきたのがドウデュースだった。大外へ持ち出した武騎手が仕掛けるとまさに別格の末脚を発揮。１歳年下のダービー馬タスティエーラ、しぶとく逃げ粘ったホウオウビスケッツを２、３着に従え、一気に先頭へ突き抜けた。

３月のドバイターフは馬群に包まれて行き場を失い５着、帰国初戦の宝塚記念も道悪に苦しみ、６着に沈んだ本馬だが、この日は身上の末脚が炸裂。ＪＲＡのＧⅠ勝ち馬としては史上最速となる上がりタイム（32秒5）を記録して豪快な強襲を決めた。この勝利により、４年連続のＧⅠ制覇を達成したうえ、来年からの種牡馬入りに向け、大きな意味を持つ２０００㍍のビッグタイトルも獲得。輝きを取り戻した千両役者はジャパンＣへ進み、日本の総大将として世界の強豪を迎え撃つ。

T.Miki